



芝山小だより



12月号

清瀬市立芝山小学校
校長 榎並 みな子

認め、助け合う

校長 榎並 みな子

明日11月29日（土）の展覧会には、ぜひ多くの皆様に御来校いただき、子供たちの作品を楽しんでいただければと思います。芝小体育館は、子供たち一人一人の思いが詰まった作品でいっぱいになり、すてきな美術館に変身しました。きっと保護者・地域の皆様には、それぞれの作品のもつよさや魅力をじっくりと味わっていただけることだと思います。

さて、11月には「東京2025デフリンピック」（国際的な「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」）が日本で初めて開催され、金メダル16、銀メダル12、銅メダル23、合計51ものメダルを獲得しました。この朗報をテレビの情報番組で知った私は、日本のアスリートの活躍に感動しました。

電車で通勤している私は、ある日、「皆様はきこえない・きこえにくいお客様が列車の遅延等があった際に情報がなくて困っていることをご存知でしょうか。もし、お困りであれば、筆談等でその状況を知らせていただくようご協力お願いします。」というような内容のアナウンスを耳にしました。デフリンピック開催期間だからこそ配慮されたアナウンスであったと思いますが、私自身が普段意識できていなかったことに気づかされ、日頃から意識してもおかしくないことだと考えさせられました。たった1つの出来事ではありますが、「誰もがともに認め、助け合う」という当たり前のことを再確認できた、とても良い機会となりました。

このことをきっかけに、電車に乗るときに意識していることがあります。援助や配慮が必要かどうかは、外見だけではなかなか分らないのですが、白杖（はくじょう）を使用されている方、学校の会議室前にも掲示しているヘルプマークや妊婦さんが持っているマタニティマークを付けている方は、見てすぐに分かるので困っているようであれば声をかけたり、電車やバスでは席を譲ったりすることができるということです。

11月26日（水）に「東京2025デフリンピック」は、閉会となりましたが、「共生社会づくり」は、これまでこれからも続きます。

障害があるかないかに関わらず、まずは、すぐ近くにいる人との「認め、助け合う」気持ちと行動を大切にしていきたいと思いますし、子供たちに伝えていきたいと思います。



マタニティマーク



ヘルプマーク



白杖（はくじょう）